

小6から採集 瓦や土器

愛院大生・兼松さん 犬山で展示

犬山市の大学2年生兼松 泰弘さん(20)が、小学生のころから市内楽田地区にある「神宮寺跡」と「小路遺跡」で採集した瓦や土器を、青塚古墳史跡公園ガイダンス施設(同市青塚)で展示している。3月24日



神宮寺跡などで採集した遺物を展示している兼松さん＝犬山市青塚の青塚古墳史跡公園ガイダンス施設で

ち、小学6年から神宮寺跡で遺物を拾っては、ガイダンス施設の学芸員に見てもらったことを繰り返していたという。歴史への興味が高まり、現在は愛知学院大(日進市)で考古学を研究している。

今回展示したのは、今まで採集した352点のうち43点。神宮寺跡の中でも南側からは瓦類が多く見つかかり、北側では陶器や皿の破片が多かったという。兼松さんは「瓦は当時、役所や寺にしか使われなかったもので、南側にお堂があったと推測される。場所ごとに拾えた遺物が違つと分かったことが一番の成果」と話

している。

3月9日午前10時から、同施設で兼松さんによる講演会「神宮寺跡について」を開くほか、同月16日には遺物を採集した2カ所を巡る散策も行う。ともに無料。
☎同施設＝0568(68)2272 (水越直哉)